



佐賀今昔アート

佐賀モバイル・アカデミー・オブ・アート 2021

大学から地域へ出てアート・プロジェクトやワークショップ等に取り組む「佐賀モバイル・アカデミー・オブ・アート」(略称SMAART、2017年～)。今回のテーマは「佐賀今昔アート」。現代アートを通じて佐賀県内の前近代に関する地域資源に触れようという試みです。

長崎街道を歩いた白象×アート×仏教トーク

Talk

島袋道浩(美術家)が2001年に発表した《二度起こること：象の話し》は18世紀に長崎街道を歩いた白象をめぐるアート・プロジェクトです。そのとき制作された白象作品が現在保管されている願正寺にてアートと仏教とが会合クロストークを行います。



島袋道浩《二度起こること：象が海からやってくる》(長崎市、2021)
撮影：松田雅代 ©SHIMABUKU

2021年12月25日[土] 17:00-19:00

- 会 場：願正寺(佐賀市呉服元町6-5)
- 講 師：島袋道浩 + 松久保修平 + 熊谷信隆
- 内 容：長崎街道を歩いた白象をめぐるアートと仏教のお話し
- 定 員：学生 + 一般20名程度(予約不要)
- 参加費：無料
- ※十分な防寒対策の上ご参加ください

島袋道浩 / 美術家 1969年神戸市生。那覇市在住。1990年代初頭より国内外を旅し、そこに生きる人々の生活やコミュニケーションに関する作品を制作。

松久保修平 / 長崎県美術館学芸員 1992年鹿児島市生。長崎市在住。九州大学大学院人文科学府修了。2017年4月より現職。長崎ゆかりのものを中心に、日本近現代美術にかかわる調査研究・展覧会企画などを行う。

熊谷信隆 / 願正寺第14代住職 1956年生。生まれも育ちも大阪。ご縁が有り1998年3月に佐賀へ。2002年に願正寺(1600年創建/長崎街道沿い)第14代住職を拝命継承し現在に至る。

売茶翁×オレクトロニカ茶話会

Talk

江戸期の佐賀ゆかりの禅僧、売茶翁(1675-1763)は京都の路上でお茶を商いながら禅の教えを人々に説きました。同じくこれまで数々の路上での表現活動に取り組んできたオレクトロニカ(美術ユニット)をゲストに交え、お茶を飲みながら売茶翁と現代アートとの接点について語り合います。

2022年1月9日[日] 14:00-17:00

- 会場：肥前通仙亭(佐賀市松原4-6-18) ●講師：川本喜美子 + オレクトロニカ
- 内容：売茶翁と路上表現をめぐる話とお茶会
- 定員：学生 + 一般10~20名程度(要予約) ●参加費：1,000円(お茶代)
- 申込：「佐賀今昔アート」HPからお申し込みください



売茶翁(1675-1763)

川本喜美子 / NPO法人高遊外売茶翁顕彰会理事長 佐賀市生、同市在住。1988年より生活情報誌の編集やマスコミ出演を通じて佐賀の地域資源の発掘・発信に取り組む。

オレクトロニカ / 美術ユニット 加藤亮(1984年大分市出身、在住)と児玉順平(1984年熊本市出身、竹田市在住)による美術ユニット。2011年から「制作と生活」をテーマに大分県竹田市を拠点に活動を展開。

和ロウソクと燭台づくり

Workshop



地域の昔ながらの素材を用いながら強くしなやかな作品制作に取り組んでいる牛島智子(美術家)をゲストに迎え、長崎街道沿いの古民家モノづくりカフェ「こねくり家」にてワークショップを行います。

2022年1月22日[土] 14:00-17:00

- 会 場：こねくり家(佐賀市柳町4-16) ●講師：牛島智子
- 内 容：佐賀ゆかりの櫃のロウソクと檜のコマの燭台を作ります
- 対 象：小学校高学年〜一般16名(要予約)
- 参加費：1,500円(1ドリンク付)
- 申 込：「佐賀今昔アート」HPからお申し込みください

牛島智子 / 美術家 1958年福岡県八女市生/同市在住。神奈川県で17年間の美術作家活動を経て90年代終わりに八女に戻ってきた。市民団体に入り水車、櫃、和紙などの伝統産業を現地を見て聞いて歩いた。2011年よりクニタケ8pinを主催、だんだんと生活人・美術作家の境界がなくなつて筆と蠟燭と筆は同じ形だとはよく笑む日が来た。

フォーラム 地域×アート×キュレーションの行方

Forum

現代アートの発表場所は美術館やギャラリー等のみにとどまらず地域各所やインターネット上など限りなく広がっています。本フォーラムでは地域で展開される表現活動を支えるキュレーションやマネジメントについて九州内で活躍する注目の若手人材をゲストにお招きし意見交換を行います。

2021年12月26日[日] 13:00-16:00

- 会 場：旧賀家(佐賀市柳町3-15)
- ゲスト：関岡絵梨花(福岡県文化振興課学芸員)
松久保修平(長崎県美術館学芸員)
佐々木玄太郎(熊本市現代美術館学芸員)
羽鳥悠樹(福岡県文化振興課学芸員)
小栗栖まり子(対馬博物館学芸員)
松田雅代(BEPPU PROJECT プロジェクトリーダー)
- 司 会：花田伸一(キュレーター / 佐賀大学芸術地域デザイン学部准教授)
- 内 容：各ゲストの企画事例紹介とフリーディスカッション
- 対 象：学生 + 一般20名程度(予約不要) ●参加費：無料

オンライン中継あり 詳細は「佐賀今昔アート」HPをご覧ください



しりあがり寿(ふ F U W A 万) (旧八女郡役所、2020) 撮影：長野聡史



「コレクティブちっこ」活動の様子(九州芸文館、2021)



「2021 昌原青年アジア芸術祭」
「ZOOM、IN、&OUT」対馬(対馬市、2021)



アントニー・ゴムリヤン(ANOTHER TIME XX) (国東市、2014)
撮影：久保貴史 © 国東半島芸術振興実行委員会

佐賀大学令和3年度地域の再興に資する研究・地域連携プロジェクト（鹿島プログラム）
連続オンライントーク「鹿島アートスタジオ」

神とダンスと オンライン



2022年1月12日【水】

ゲスト：新部 健太郎 中国武術・易筮家

2022年1月19日【水】

ゲスト：河合 拓始 ピアニスト・即興演奏家・作曲家

2022年1月26日【水】

ゲスト：地主 広志（公社）整体協会整体コンサルタント

2022年2月2日【水】

上記3名によるトークセッション
「伝統芸能と現代の身体・表現」

時間 ▶ 各回10:30-12:00

オンライン中継 詳細は「佐賀今昔アート」HPをご覧ください

鹿島市七浦地区を中心に
佐賀県内各所に伝わる
民俗芸能「面浮立」。
鬼面を被り、鐘・太鼓を打ち鳴らしながら
地域を練り歩き、神社に奉納される神事ですが、
その起源や解釈など
分かっていないことも多くあります。
このオンライントークでは
3名の身体および表現の専門家を交え
様々な角度から「面浮立」の
魅力について話し合います。

写真提供：
佐賀県観光連盟



写真提供：
佐賀県観光連盟



新部 健太郎

中国武術・易筮家

1977年函館生 / 福岡市在住。NPO法人「福岡気功の会」指導員。東京操体フォーラム相談役。壺中堂中国武術教室主人。来福以来、気功および中国伝統武術、易学を学ぶ。一読書人として東洋思想を漫遊しながら、中国武術「八卦掌」の教授、易经講座、中洲スナック占い師、九州大学国際部「JTW」プログラム外部講師などを遍歴。



河合 拓始

ピアニスト・即興演奏家・作曲家

1963年神戸市生。東京で二十数年活動後、2012年から福岡県糸島市在住。ピアニストとして現代音楽コンサートと即興演奏ライブを中心に、作曲、トイピアノや鍵盤ハーモニカの演奏、朗読や舞踊との共演、こぼ表現など活動は多岐に渡る。CDも多数。九州一円・関西・東京・欧米で演奏している。1991年東京芸術大学大学院修士課程（音楽学専攻）修了。



地主 広志

（公社）整体協会整体コンサルタント

1968年広島市生 / 福岡市在住。北九州大学（現北九州市立大学）外国語学部中国科卒。貿易会社勤務、台湾駐在を経て整体創始者野口晴哉の直弟子である（公社）整体協会福岡支部長、鬼塚凡生氏に入門、2011年独立。現在、佐賀市と福岡市にて体療と活元運動を中心に体育としての整体を指導中。

